

東方篆刻研究会（伊勢）

とうほうてんこくけんきゅうかい
平成12年ごろに、伊勢市の市民講座・篆刻講座の受講生を中心に発足した自主サークルです。従来の漢字の書体だけではなく、講師の高潤生先生が考え出した日本人に親しみやすい「かな篆刻」を学んでいます。



東方篆刻研究会 会長
しのはらりゅう
篠原 龍さん

お問い合わせ

TEL 0596-21-0900
(いせトピア)

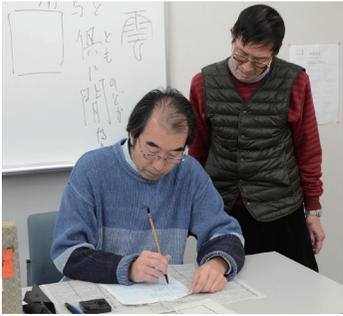
三重県内で活躍するグループを紹介する「いま、グループネット」。今回は、伊勢市の「東方篆刻研究会」を紹介いたします。篆刻とは印章を彫ることで、中国が起源です。彫りの技術だけでなく文字や篆刻の歴史も含めて学んでいます。

——篆刻とはどういふものか、
教えてもらえますか。

篠原：篆刻とは、中国を起源とする印章を彫ることをいいます。石や木に、刀を用いて文字を彫り、書物や巻物の端に押して自筆の証明としています。篆刻は一般的に、篆書や金文と呼ばれる古代中国の漢字の書体を彫ります。書と彫

——講座の様子を詳しく教えてください。
えまますか。

篠原：毎回書体の見本が配られ、彫り方のコツや書体の形を学びます。高先生が、自ら彫ってお手本を見せてくださるので、高度な技術をまじかで学ぶことができます。講座では、篆刻技術だけでなく、文字が生まれた背景や歴史も話してくださいます。それを楽しみに行っているメンバーも多いですよ。「もともと文字で遊んでほしい。時代を映し出すような言葉や、身近な言葉で表現してほしい」というのが高先生の想い。メンバーの皆さんは、季節を表す言



高 潤生先生による指導



デザインした印章を彫る※



発表会での体験教室※

刻が合わさった工芸芸術として、中国ではもちろん、日本でも古くから文人が趣味でたしなんできました。

——篆刻にはいくつか流派があると聞いています。

こちらの研究会はどうですか。

篠原：私たちの研究会は、中国出身の高潤生先生に指導を受けています。本来、篆刻は漢字を彫るものなのですが、高先生は、「日本には美しいかな文字があるのだから、それで篆刻をしましよ」と考えられました。それぞれの流派になぞらえて、独自にかな文字の形を考案され、辞書もつくられました。私たちはそれをお手本に、篆刻を楽しんでいます。

葉や文字、座右の銘から好きな一文字を選び、それぞれの想いを石に刻んでいます。文字をどう並べようかと、デザインを考えるのも楽しいですよ。

——展示会も定期的に開かれるそうですね。

篠原：はい、現在は、年3回のペースで展示会を開いています。発表の場が多いので、皆さん張り切って取り組んでいます。高先生の個展での発表も含めて、会場では体験教室も用意しています。多くの方に篆刻のおもしろさを知ってもらい、私たちの仲間になってもらいたいですね。

——型にはまらない自由な
発想ですね。研究会の皆さんの
反応はどうですか。

篠原：かな文字は親しみやすいと、皆さんに喜ばれています。展示会で発表するときも、初めて篆刻に触れる方からわかりやすいと好評です。



篆刻のデザイン画

——ありがとうございました。長い歴史の中で受け継がれてきた篆刻を、日本の美しいかな文字で表している東方篆刻研究会。伝統の技の継承と、日本の文化の融合、そしてメンバーの自由な発想による作品で、篆刻を親しみやすいものとして広めています。



東方篆刻研究会のメンバー※